口語體でないものも現代文でないものはかかせぬやうになつたのはよい傾向であると思ふ。この傾向を一層進めて一般の人の文も全然口語體になる可きである。しからば普通教育に於ても口語文體を採用す可きであらうと思ふ。これは研究す可き問題であらう。

四、候文。　候文は大分減じたやうであるが今なほ相當な勢力があるのみならず文部省では小學校の教科書中に候文の分量を益增加させて居る。これは候文を維持せんとする爲めであるか或は候文が實際社會に用ひられてゐるからであるか知らぬが自分は口語體が有力になると同時に候文は現代に容れられないものであると思ふ。しかし歷史習慣の力は強くして一時に之を全廢する事は出來ないかもしれぬが成る可く早く世の中から取り去つてもらひ度いと思ふ。

以上四つの問題は決して學校長としての意見ではない。只自分一己の意見として、ずつと以前から持つて居るのであるが、これ等に就いて、實際教育の任にあたつて居られる人々に實際に研究せられた上での意見をこの誌上に發表して貰ひ度いのである。

消えがての雪と見るまで山がつの
かきほのすもゝ花咲きにけり。

文苑

漢詩

贊助員　森岡タケ

◉秋日山行

幽峰霜氣滿祇林　古壁僧房落葉深
石磴無人秋寂寂　香雲叢裡送鯨音

◉秋日過古戰場

一丘栢老已千年　荒草凄風霜後天
豪傑何人埋骨處　陰蟲空恨夕陽邊

◉秋日懷友人

風雲渺渺路漫漫　幾度夢回往日歡
問訊別來安穩否　半窓燈下贈琅玕

◉客舍聞雁

高秋月明水雲鄉　一夜更深鴻雁翔

遠客感時兄弟序　念歸傳信少年場

◉秋日送友人赴任所

蛟龍雲雨一天秋　奮迅飛騰赴九洲
堂上丈夫空惆悵　女兒欷歔倚門愁

◉秋夜宿漁家

江鄉烟雨月輪孤　蘆葉搖風雁鶩呼
一枕半窓三五夕　漁翁柔櫓渡琶湖

◉山寺觀楓

萬峯霜葉勝花紅　吟盡詩僧句亦工
錦片忽飄禪寂境　晚烟暮色畫屏中

◉晚秋即事

蒼松翠柏滴秋原　衰柳枯桑傍短垣
月下寥寥孤驛夕　霜蟲迎我語荒園

◉傷悼

芳蘭花落鳥聲悲　松柏爲傷野水涯
天奪妙年長夜地　春秋共語更無期

◉哭友人

悲風颯颯滿邊城　一夜更尋往昔盟
既至九原空有字　追懷惆悵泣呑聲

◉初冬閑居

朶門寒色白雲重　石徑蕭條霜露濃
一室垂帷焚榾拙　更長窓外水潺淙

◉冬曉早發

北風凛冽夜方長　江上銀沙三寸强
宿鳥一聲呼渡處　梅放寒香路岐傍

◉冬夜泊舟

天涯渺渺四山空　月白新磨淨碧中
烏鵲南飛千古色　愁人長嘯大江東

◉冬暖

暖烟輕上一冬晴　背曝南窓樂太平
瓶裡疎梅忽入夢　悠悠繞舍早鶯聲

◉至日遊山寺

乘閑冬至訪隱倫　松老山園幽澗濱
暮影當窓春意動　疎梅一笑坐相親

◉雪中作

長空千里虎文班　玉樹瑤華滿遠鬟
暮色書窓聲淅瀝　忽驚一夜變江山

漢文

◉讀伯夷傳

研究科　竹田みち

孟子云。伯夷聖之清者也。論二二子一。可レ謂レ盡矣。蓋彼二子者。孤竹君之子也。及二父卒一。二子相讓而不レ繼二其後一。終逃二其國一。夫富貴尊榮。人之所レ欲也。權勢威力。亦人之所レ欲也。而彼二子則捨レ之而不レ顧。且其往レ周也。非二武王所レ爲一。而恥レ食二其粟一。終隱二首陽山一而餓死。可レ不レ謂レ清哉。當二此時一。擧二天下一皆是二武王所レ爲而從レ之。而二子獨斷々然非レ之。餓死而不レ顧。非二聖之清者一。安能至レ此。歲寒然後知二松柏之後凋一。擧レ世混濁清士乃見。孟子之論二二子一。可レ謂レ盡矣。

◉項羽論

秦之暴虐。至二始皇一而極矣。天下積憤之士。乘二其釁一。群起攻レ秦。而其能將二五諸侯一。血戰奮鬪。以亡レ之者。項羽也。羽本楚人也。秦殺二其君懷王一。又殺二其先項燕一。而又殺二其季父項梁一。暴虐如レ此。則羽之亡レ秦者。復二君父累世之深仇一也。可レ謂二忠孝一矣。唯其忠孝也。故天下豪傑。雲集響應。爭爲二之用一。竟以亡レ秦。當二此時一。羽奉二義帝一。以據二關中之天險一。棄二霸道一。以行二仁義之大道一。招二勝國之遺臣一。撫二新附之黎庶一。則天下皆稱二其忠孝一。而服二其德一。豈復有下身死二東城一之禍上哉。謀不レ出レ此。自矜二功伐一。以爲二霸王一。竟至レ弑二義帝一。此以二忠孝一而始焉。而以二不忠不孝一而終焉者。宜矣其亡也。雖レ然。羽非レ有二尺寸一。崛二起隴畝之中一。數年亡二暴秦一。以復二君父累世之深仇一。亦可レ謂二豪傑一矣。

國交

◉大化の改新

文科二部三年　小泉郁子

神武天皇肇國の大業成りてより、年を閲することまさに一千載、世代は漸々遷移して、又簡朴なりし舊態に異なり、壺中の天地やうやうその平安はやぶられぬ。

封建の國家は尾大にして掉はず、所謂族長政治は年を逐うて其の弊を加へぬ。即ちかの閥族は跋扈して路にあたり獨り勢利を恣にして、上其の明を蔽ひ奉り、下その達をふせぎ、万乘の君主すでに直に蒼生の慈父に在しまさず。あはれ無告の烝民また直に天皇の赤子にあらず。あはれ無告の烝民將た安にか適歸すべき。斯く封建の弊と族長の弊と、相參差して最も荒涼なる面目をあらはせるもの、これ大化改新の以前に於ける我が國情なり。加ふるに當時一韋帶水を隔てたる支那は恰もかの唐朝にして、彼や空前の大版圖を奄有